

✠008 ダビデ

サムエル記上 16 : 1

主はサムエルに言われた。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出かけなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」

2 サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましょうか。サウルが聞けばわたしを殺すでしょう。」主は言われた。「若い雌牛を引いて行き、『主にいけにえをささげるために来ました』と言い、

3 いけにえをささげるときになったら、エッサイを招きなさい。なすべきことは、そのときわたしが告げる。あなたは、わたしがそれと告げる者に油を注ぎなさい。」

4 サムエルは主が命じられたとおりにした。彼がベツレヘムに着くと、町の長老は不安げに出迎えて、尋ねた。「おいでくださったのは、平和なことのためでしょうか。」

5 「平和なことです。主にいけにえをささげに来ました。身を清めて、いけにえの会食と一緒に来てください。」サムエルはエッサイとその息子たちに身を清めさせ、いけにえの会食に彼らを招いた。

6 彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。

7 しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」

8 エッサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」

9 エッサイは次に、シャンマを通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」

10 エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」

11 サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」

12 エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」

13 サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

★預言者サムエルが、エッサイの家に行き、次期王としてエッサイの子どもを一人ずつ検分するときに、サムエルはその外見から長男のエリアブを良しと見たが、神さまはサムエルに対して、「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」と語った。

★前出7人の兄弟を神が選ばなかったということで、エッサイの8人目の息子、「末の子」としてダビデを紹介している。

サムエル記上 17 : 12

ダビデは、ユダのベツレヘム出身のエフラタ人で、名をエッサイという人の息子であった。エッサイには8人の息子があった。サウルの治世に、彼は人々の間の長老であった。

歴代誌上 2 : 13~15

13 エッサイには長男エリアブ、次男アビナダブ、三男シムア、

14 四男ネタンエル、五男ラダイ、

15 六男オツェム、七男ダビデが生まれた。

16 彼らの姉妹は、ツエルヤ、アビガイル。ツエルヤの子は、アブシャイ、ヨアブ、アサエルの三人。

★歴代誌では、男7人（サムエル記：8人の息子）、女2人、合わせて9人の兄弟姉妹だったことがわかる。

聖書の世界で「七」は神の御業を示す完全数としての意味を持つ。つまり、歴代誌はダビデがまさに神の御業の内に生まれたことを強調するのである。ところが、サムエル記では、当の七男は誰かという全員の名前が出てこない。つまり、伝承として知られているエッサイの子どもの名前は、長男エリアブ、次男アビナダブ、三男シムア、8人目、末の子としてダビデであって、サムエル記の記述の方が实际的であり、あえて途中の名前がわからないからといって七男に繰上げしなかったのは、ダビデの誕生を栄光化させない、そういった後付の意味がある。

名前と意味は以下のとおりである。（左：サムエル記の表記／右：歴代誌の表記）

長男（エリアブ／エリアブ）「(わたしの) 神は父」という意味。

次男（アビナダブ／アビナダブ）「わたしの父は寛大な心を示した」という意味。

三男（シャンマ／シムア）「(わたしの神は) 聞いた」という意味。

四男（――／ネタンエル）「神によって与えられた」という意味

五男（――／ラダイ）「ヤハウエは支配する」という意味

六男（――／オツェム）「癩癩持ち」という意味

七男（――／ダビデ）「(神に) 愛されている」という意味

八男（ダビデ／――）

なお、ネタンエルは英語表記では Nethaneel で、この名前はヨハネによる福音書にだけ登場するナタナエルという人物の名前と同じである。

歴代誌は、ダビデ（神に愛されている）をエッサイ（「わたしは所有する」の意）の七人目の子どもとして、神によって与えられた、まさに来るべき王としての性格を強調しているのであり、サムエル記は、それよりもむしろ人間ダビデの功績よりも、その背後にあって長男（人間の優位性・優越性）を選ぶのではなく、あえて「末の子」という、家系においては最もその端に位置するダビデを用いることによって、その背後にあって働かれる「神の働き」を強調しているとも……。